



TITLE:

随意運動と不随意運動の発現機序 (Ⅲ 共同利用研究 2 研究成果)

AUTHOR(S):

吉益, 倫夫

CITATION:

吉益, 倫夫. 随意運動と不随意運動の発現機序(Ⅲ 共同利用研究 2 研究成果). 霊長類研究所年報 1971, 1: 41-41

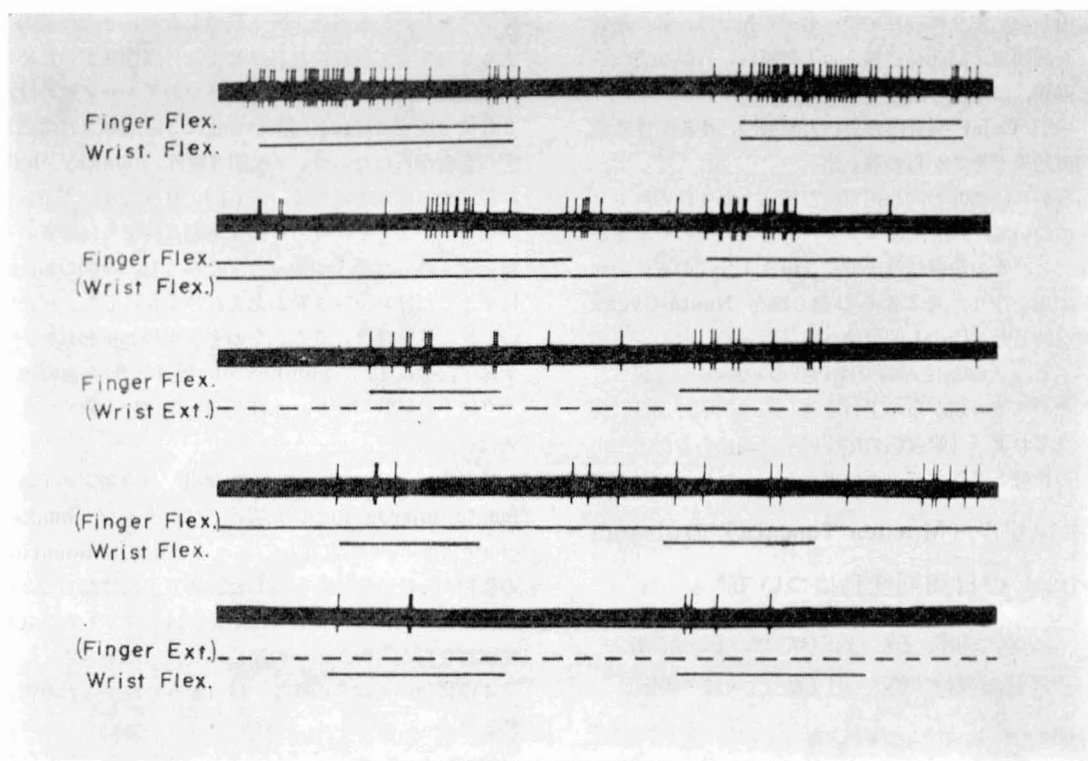
ISSUE DATE:

1971-09-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/160468>

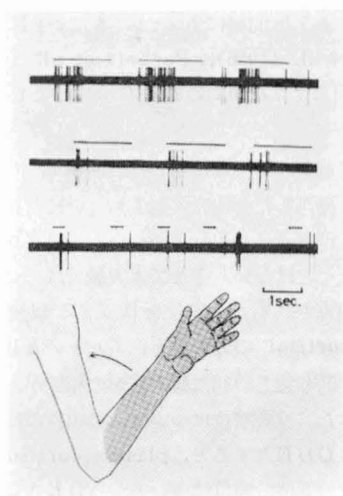
RIGHT:



第 2 図

指と手首の関節の組合せで駆動されるニューロン。

1 番目、指の屈曲と手首の屈曲を同時に行なった。2 番目、手首を持続的に屈曲した位置で指を屈曲した。3 番目、手首を伸展した位置で指の屈曲。4 番目、指を屈曲しておいて手首を屈曲。5 番目、指を伸展しておいて手首の屈曲。



第 3 図

関節と皮膚の組合せで駆動されるニューロン。

1. 関節と皮膚の同時刺激 2. 関節のみの刺激 3. 皮膚のみの刺激。刺激の時間は太線で示す。皮膚の受容野は下の挿図に示す。

随意運動と不随意運動の発現機序

吉 益 倫 夫 (東大・医・脳外科)

京大霊長類研究所神経生理部門の昭和44年度の研究プロジェクトの一つであった「サルの開・閉口反応時の三叉神経中脳核内の筋紡錘活動単位に関する研究」について研修した。期間が短いこともあって、実験技術（手術法・微小電極作製法・細胞活動導出記録法など）の修得が主であったが、三叉神経中脳核の抑制性介在ニューロンと考えられる Supratrigeminal nucleus と思われる部位より開・閉口反応と関連のある細胞活動を導出記録でき、初期の目的を十分果すことができた。

感覚情報の中枢プロセッシング

馬 淵 正 子 (東大・医・脳研・解剖)

1. 大脳皮質より皮質下運動核への投射。

大脳皮質運動領から皮質下運動核、特に三叉神経運動核への投射を検索する目的で2匹のリスザルを用い、運動領除去後2週間生かした後、Nauta-Gygax 法によ